

# 続・ふるさと こぼれ話

## つぎに来る旅人のために

町少年自然の家跡地  
(東水沼唐桶の溜)道路脇  
の自然石に

「つぎに来る旅人のために」

の記念碑がある。  
中山正男

中山正男氏は作家で、代表作の「馬喰一代」は映画にもなった。また、日本ユースホステル協会会長を務め、ドイツで生まれたユースホステル運動を日本で行った一人でもある。中山氏は若者をこよなく愛し、政府に働きかけ「青年の船」を実現させ、若者の外国視察・交流を行った。

「つぎに来る旅人のために」は、「泉の掟」の文意である。砂漠を旅する人たちにとって、泉を見つけた時ほどうれいことはいない。喉をならして飲みふける。しかし、その泉を飲み

干すことはない。

「つぎに来る旅人のために」  
泉を清く保て

これが「泉の掟」である。なんと美しい規律であろうか。野外活動を行っても、自然を傷つけることなく、いつでも「つぎに来る旅人のために」の心がけをすることがまさしくユースホステルの精神であると思う。

この記念碑を計画したのは、ユースホステルグループ芳賀やじきたである。芳賀やじきたは「巣立つ職業人を励ます会」に協力していた。中学校を卒業し、就職する生徒の心の一助になればと、ささやかな贈り物をしていた。

中山会長の講演を町内の中学・高校生に聞かせることはできないだろうか。県協会の専務理事で

第49回

文・大谷津忠一

ある野澤重治氏(通称元帥)に相談した。全国の理事会の折、中山氏に相談したところ快く引き受けてくれた。昭和43年3月19日、栃木県協会との共催で、芳賀高等学校で講演が行われた。この縁により、中山ご夫妻とやじきたの交流が始まり、この記念碑建立へとつながるのである。

平成9年1月26日、記念碑の除幕と式典が行われ、当時の県協会会長であり、宇都宮市長で今は亡き増山道保氏が代表としてあいさつ、中山ご夫妻のお子さんたちや、多くの関係者が集まった。



### しまがしの 芳賀の自然 vol.01

町内に春を告げる花を紹介します。



#### ニオイ タチツボスミレ

スミレの花の可憐さは古今東西、多数の人々に愛されて園芸種として品種改良され続け来ている。



#### ナシの花 (幸水)

桜のソメイヨシノの開花から約10日後に咲く。

### 編集後記

□広報紙の編集に携わった6年間、毎月バタバタしていました。取材、編集、発行と時間が過ぎ、ホッとできるのは、最終の直しが終わって印刷の出来上がりまで待つ時間くらい。ちゃんと内容が伝わっているか、見ている皆さんが喜んでくれるのか…。そんな不安を抱えた毎日でした。

□そんな中、読んでいただいている人からの反応が一番うれしい瞬間で、褒めてもらったり、怒られたり。どんなカタチでも反応があると「読んでもらえてるんだ」と実感が沸きました。

■4月に異動。これからは一読者として、皆さんと一緒に「広報はが」を盛り上げていきたいと思えます。6年間ありがとうございました。(マウ)

■編集 芳賀町広報聴聞委員会  
☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp  
■発行 芳賀町企画課  
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地  
■芳賀町ホームページアドレス  
http://www.town.haga.tochigi.jp

①芳賀町の携帯サイトはコチラから➡



この印刷物は、ESPAのゴールド基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています  
ESPA：環境保護印刷推進協議会  
http://www.e3pa.com